

文献 45

Kleinhenz J, Streitberger K, Windeler J, Güssbacher A, Mavridis G, Martin E. Randomised clinical trial comparing the effects of acupuncture and a newly designed placebo needle in rotator cuff tendinitis. Pain. 1999;83(2): 235-241. MEDLINE ID 10534595

1. 目的

腱板炎に対する鍼とプラセボ鍼の効果をランダム化比較試験で明らかにする。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

ドイツ、新聞記事を通してハイデルベルグ地方の整形外科、理学療法施設、スポーツクラブ、大学の掲示板で肩に痛みがあるアスリートを募集。

4. 参加者

スポーツに起因する腱板疾患を有する者 52 名

5. 介入

鍼群 25 名、プラセボ鍼群 28 名に介入を行った。鍼、プラセボ鍼の介入は TE15(天髎)、SI12(秉風)、SI14(肩外兪)、BL44(神堂)、SI11(天宗)、SI9(肩貞)、TE14(肩髎)、LI15(肩髃)、LI14(臂臑)、LI11(曲池)、SI6(養老)、SI3(後溪)、TE3(中渚)、GB34(陽陵泉)、ST38(条口)、LU2(雲門)、HT1(極泉)、PC2(天泉)、Taijian(奇穴)、Jinquan(奇穴)のうち 12 ヶ所に 20 分間置鍼。プラセボ鍼は皮下に刺入されない形状になっている。

治療回数は 4 週間で 8 回。

6. 主なアウトカム評価項目

modified constant murley score

7. 主な結果

鍼群は modified constant murley score が 19.2 点改善し、プラセボ群では 8.4 点改善した。両群に有意な差を認めた。

8. 結論

体内に鍼が刺入されないプラセボ群と比較して、体内に刺入される鍼群において有意にスコアが改善したこと、慢性の肩痛を有するアスリートに対する鍼治療は、鍼を体内に刺入することが重要であることが示された。

9. 論文中的安全性評価

鍼治療で頭痛 2 名、眩暈 2 名、下肢の筋力低下、炎症反応が 1 名。プラセボ鍼で失神 2 名。

10. Abstractor のコメント

プラセボ鍼を用いて鍼治療の効果を検討している。肩痛を有するアスリートに対して、生体へ刺入する鍼治療が、刺入が行われないプラセボ鍼治療と比較して効果的であったことは、鍼治療の有効性を示唆するものであり、研究意義は高いと考えられる。鍼治療を行う部位や刺激方法については今後の研究が待たれる。

11. Abstractor and date

吉田行宏 2016.4.17